

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成30年度 第2回 川西市青少年センター運営委員会		
事務局 (担当課)	こども未来部 青少年センター		
開催日時	平成31年2月8日(金) 10:00~11:30		
開催場所	こども・若者ステーション 青少年活動ルーム		
出席者	委員	石田 剛、津田加代子、福富靖司(代理)、矢野孝雄、中田鞆子、古谷茂政、澁野敏彦、掛井政之、上中敏昭、高月和人(代理)、中塚一司	
	事務局	山元 昇、増田善則、今北隆博、野坂比佐子	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部可	傍聴者数	0 人
傍聴の不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	開会 1. 運営委員の委嘱について 2. 会長あいさつ 3. 運営委員自己紹介 4. 協議事項 (1) 平成30年度川西市青少年センター事業総括 (2) 平成31年度川西市青少年センター事業方針 5. その他 閉会		
会議結果	協議事項は(案)どおり了承		

## 1. 運営委員委嘱状交付

## 2. 会長あいさつ

おはようございます。平成30年度第2回川西市青少年センター運営委員会にご参加下さいましてありがとうございます。学校の方は国立・私立高等学校の入試が間近で本当に忙しい時期だと思います。忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。気になっていることがあります。一つは今話題になっている虐待で、小学校4年生の女児が殺害されました。その時に学校、教育委員会、児童相談所の活動がどうだったのかとマスコミなどで話題になっています。私も組織の中にいる人間として「ああだったかな、こうだったかな、このあたりの連携がどうだったか」といろいろ思うところで、一方、「うちの組織だったらどうだったかな」と思うわけです。なかなか組織が大きくなればなるほど難しくなるわけですが、一つの命を救えなかった事実は受け止めなければいけないと思っています。

青少年センターは組織変更ということで、こども未来部に所属しています。色々な面で機能しているのかということです。メリットとデメリットを考えてこのようになったわけだからこの体制で取り組んでいきます。もう一点、補導委員会の会長です。長年にわたり本当にお世話になりました。今年度で退任されるということです。個人的には川西北小学校教頭在職時にお世話になりました。いつも自転車で回りながら子どもの様子であるとか、地域の商店街の様子であるとか教えていただきながら地域を周ったのが懐かしく思い出されます。補導委員会は実働で、実際に足を運んで動いていただいているわけで、本当にお世話になりました。ありがとうございました。有意義な会議になりますように宜しく申し上げます。

## 3. 運営委員自己紹介

<各委員の自己紹介>

<事務局の自己紹介>

## 4. 協議事項

会長) それでは、協議事項に入ります。平成30年度川西市青少年センター事業の総括を説明してください。

<事務局説明>

(1) 平成30年度川西市青少年センター事業のまとめ

平成30年度 川西市青少年センター事業総括

主な活動・成果と課題等

会長) それではここから質疑及び意見交換に入ります。忌憚のないご意見の交換のお願いいたします。

委員) 補導委員が高年齢化している。学校から若い保護者に参加していただければありがたい。我々年代が高くなり子どもたちと年齢がどんどん離れていき子どもたちの顔を見てもどこの子かわからない。自分の子どもを持ってもらったら子どもの顔もわかるのではないか。学校から2人お願

いすることはできないものか。学校安全協力員も若い人に出ていただければと思う。若い人が出ている地域もある。中央地区は80才の人もいる。

会長) 今のところPTAから出られた方は2年間が任期と聞いている。その方が続けて下さればいいと思うが、そうはいかないということか。学校現場としてどうですか。

委員) 現在、学校推薦で1人出てもらっている。今の保護者は働きに出る人が多いのでこれ以上出てもらうことは難しい。特に中学校はほとんどの方が働き出ておられるのではないかと。地域の中で見守ってもらっているという感謝の気持ちは持っておられるが委員になってもらうとなると難しい。実際委員になって、その方が続けるというつながりができればいいと思う。

委員) 学校安全協力員さんには毎朝登校時も夕方、また寒い日も、通学路に立ってもらって見守りをしてもらっている。嬉しく思っている。学校安全協力員さんが増えればと思って募集はしているが出て来ない。誰かが声を上げていただければ私からも、じきじきにお願いするのだが、上がってこないのが現状だ。若返りを考えていかなければと思っているができていない。

委員) ぜひお願いしたい

委員) 今は、多くの親は働きに出る。親は仕事が忙しくてPTAの仕事すら引き受けてくれない現状がある。PTAの仕事の見直しを進めている。どう集約していくかだが、動きを変えていこうとしている。時間はかかっているが何らかの方法で表していきたいと考えている。

委員) 仕事されている方はパートさんが多いと思う。融通のつく時間帯を言って頂ければパトロール時間を調整できるし、「この時間に来なさい」ということはしないので考えに入れてほしい。募集するときにそういう説明をいただければ補導委員になろうとされる方が出ると思うのでお願いしたい。

会長) 「少子高齢化社会で、働きに出る保護者が増えている。」この現状で若い世代の補導委員を増やすというのは無理があると思う。システムの見直しが必要ではないか。補導委員が話題となっているが、学校安全協力員も110番のうちも必要性はだれも考えている。しかしこのままでは近いうちに回らなくなるのではないかと。補導委員さんから、「勤務時間に合わせてパトロール時間を設定する」と提案されたが、今と同じことを同じ状態でしようと思えばできなくなる。PTAさんも言われましたが、最低どこを抑えていくかを決め、効率よく運営できるように見直しをすることが必要だと思う。

会長) 他に何かあればお願いします。

委員) 青少年補導委員の活動は子どもだけを守るのではなく地域を守る効果がある。補導委員さんがベストを着て活動することが地域の防犯になる。活動は地道ではあるが、安全なまちづくりには大切である。

会長) 学校は学校で回られていて、コミュニティーはコミュニティーで回られている。それを一緒にすることはどうか。

補導活動だけにベストを着て回ってもらうのではなく、犬の散歩とか・・ベストを着てただ歩くというのはどうか。補導活動が目的だけで回る人を作るのは厳しいのではないかと。まだ煮詰まっていないが一つの意見として述べた。

委員) 補導委員の皆さんに対しては、活動を続けていただいているという気持ちをもって丁寧な対応をしないとさらに担い手が減っていくと思う。

会長) 補導委員が見守り活動することが当たり前だと思っている人が多い。学校でも管理職はよくわ

かっているが、一般の先生にはわかっていない人がいる。折を見て（補導委員を）子どもたちに紹介したりして感謝の気持ちを育てていくことが大切だと思う。

委員) 補導委員を募集してもなかなか集まらないというのはよくわかった。商工会を通じて募集してはどうかと思う。

事務局) 直接的には働きかけていない。中学校区単位で各地域で探してもらっている。そういうルートは発想としてなかった。

委員) お店をやっておられる方もあるのでそういう方なら出やすいのではないか。以前自分が補導委員をしていた時には（地域には）高齢者も多いわけで、青少年だけを見守るのではなく地域の高齢者にも声掛けをしていた。

会長) 商工会から働きかけてもらえるならそれも視野に入れたい。

## <事務局説明>

(2) 平成31年度 事業内容  
平成31年度 重点事業

会長) 今年度と大きく変わらないが、ネットとか情報社会についての研修を進めたいということです。質疑に入ります。何かあれば宜しくお願いします。事務局の方からは子どもたちの様子は一定の落ち着きがみられるとありました。川西警察福富係長、最近の子どもの犯罪はそんなに変わらないですか。どうですか。

委員) 最近の青少年の犯罪は、非行、不良行為とも減少している。10年前に比べると半減している。もちろん子どもの数が減っているのも一概によくなっているとは言えないが、バイク無免許運転、喫煙は減っている。その分スマートフォンをきっかけとした犯罪、性的被害にあった事案が増えている。

委員) 最近はSNSの不適切使用が多くなっている。10年前、緑台高校で教諭をしていたが、その時は携帯電話は走りぐらだった。ところが今は、大半の生徒が持っている。新入生に対しては入学式から「全世界に拡散するよ」と話をする。高校生だから理解していると思うが何度話しても写真を撮って勝手に加工し、アップしている。遊びとの境目がわかりにくいのだが、いつの間にか遊びでは済まされないとこまで、エスカレートしていく。学校ではスマホの利用について入学時や人権関連で勉強しているが、すぐにトラブルが起きてしまう。情けない話だが、3年生でも不適切な使い方をする者もいる。体育大会の時にスマホで撮って載せて、それに面白おかしくコメントを書く。ホームルームや学年集会で指導はしている。スマホの利用方法を積極的に啓発していくことが重要と思う。高校では校内持ち込み許可が多く、クラスや部活の連絡としてLINEも使われている。

会長) この前からテレビでも寿司の店でウケを狙った動画をラインにアップする問題事案が放映されていた。「善悪の判断ができず、ただ面白いから・・・」ということでアップしていたが、信じられない。大きな責任を背負って生きていかなければならないことがわからないのか。

会長) 研修に行った。「最近の子どもたちは、つながりにくい関係にある。そのくせ遠くの人とはつながっている。軽い気持ちでひよこひよこ会いに行き出会う。」「SNSは遠くの人にまで拡散しているのに、自分の中では密室で、誰も知らないだろうと思っている。一人で楽しんでいるよ

うに勘違いしている。」という話があった。その研修会にはラインの会社（企業）も来ていた。企業として問われているので、自分たちでどうしていくか（SNS問題）問題解消に向けて研究していくようだ。業績を上げるとか、社会貢献していくとかを考えているようだ。期待したい。自分が生徒指導担当をしていたころはその辺でたむろしていたが、今はほとんど見なくなった。ラインを使えばわざわざ出かけてたむろしなくても、その場にいるのと同じ気持ちで話ができるからだろう。つながり方が変わったといえればそれまでだが・・・

委員) 31年度方針に、青少年補導委員の定員は120人となっているが、増加するのか。

事務局) 現在、3名の欠員があるため117名で活動していただいているが、120名の定員は増えない。

委員) 民生委員は今年改選の年だ。民生委員も委員の確保には苦慮している。民生委員会は75歳を定年としているが、本人がやる気があって健康状態が良くて、自治会長が推薦すれば75歳以上でも委員をできる。桜が丘小校区でも、北小校区でも成り手がないので、75歳以上の人でも申請してやってもらっている。やる気のある人はどんどんやってもらうことで今のところは何とか回っている。

会長) 組織を成立させるための人員確保の問題は今後どの団体にも起こりうることで考えなければならない。それぞれの単体ではよく考えておられる。もう少し単体を横につなげて見ていただいて考えていただけないか。単独でそれぞれがやっていくのは無理なところに来ているのではないかと思っている。

委員) 補導委員と民生委員は重なってなられている人が割と多い。市長に「なぜ民生委員になる人がいないかご存知ですか。」と話すとも市長もわかっておられて「市から色々任せられるからだろう。」と話された。民生委員活動内容が増えてきている。私が（委員に）なった19年前は、「一人暮らしの高齢者だけ見ていてね」と言われていたが、それが、児童虐待、認知障害、家出の人も増えてきて、見ないといけない、手一杯・・・。「自分がする人」「自分がされる人」と民生活動を「する人」「される人」という関係ではなく一緒に活動できる関係になればいいと思う。

会長) 大阪ではそういう取り組みをされている所があるようだが。虐待に対してチームを組んで行っている。自分も調べているがそういう取り組みが必要だと思う。

委員) 難しい。学校の安全指導は（実質）本当に20分、30分の活動だ。桜小の場合見守りが必要などころは4ヶ所だがそれができない。80歳代の方が多く健康面を考え「この冬はできない。」と学校に伝え、安全員には1月は休んでもらった。70才台から80才までの方でやろうとした。「もし私たちがいなかったら子どもたちはどうなるだろう。じっと待っているのだろうか。」と考えた。子どもたちは時計はなく、電話番号を知らない。欠席連絡がないまま全員が揃わなかったら何をもとに彼らが動くのかと・・・。このインフルエンザが始まって学級閉鎖され、子どもたちが少なく（集団登校場所に集まらない）なって困った時があった。

働きに出る母親たちが増える中だけれど、「せめて3回/年の日を決めて20分だけでも出てくれないか。」「学校安全協力員ではなく、共同でしないか。」と保護者に発信しようと学校と話している。それでもやっぱりいやだと言われたら「せめて自分の思う時に出てよ。」というように考えている。

会長) 制度的な見直しを含めて考えて下さりありがとうございます。

委員) 集団登校班の5、6年の代表者に「今日は欠席者がだれだれだ。」「今日はだれだれが遅れてきます。」と学校安全協力員さんにいうように、学校で指導していただければ助かる。集合場所では一人でも集まらないと全員集まるまで、ずっと待っている。

委員) きちんとできているかどうかはわからないが、本校では班長に「これが最後の班です。」というように指導している。しかし、「誰が欠席で誰が遅れてくる。」までは班長は把握できていないので、報告できていない。

会長) 完璧は求めている。しかし学校安全協力員さんに心配していただいていること自体が見守りにつながっている。

委員) 東谷地区で違った動きが出ている。お母さん方に「働きに出るな」とは言えないので、補導活動という形にとらわれず、防犯啓発法被を作りそれを着て動く(買い物や公園をぶらぶら散歩する等含む)活動をしようとしている。それだったら若いお母さん方もできるのではないかと思っている。法被の効力はあると考えている。

会長) それをやっているところは増えていると思う。それだけでも(法被を着る)かなり抑止力になるらしい。運転ドライバーでも気を付ける。校長の時は立ち番やっていた。今は全くやっていない。これがダメなのではないか。皆がちょっとずつすることが大切ではないか。役割とするとしんどくなるけれどちょっとずつであればできるのではないか。

委員) 法被の話が出たが、警察でも制服の指導効果を確認している。「制服が抑止している」と言っている。青少年補導委員さんもベストを着て活動されているから抑止力になっている。話は変わるが、自分の小学校時代は制服があって、その服から一目瞭然小学生と分かった。子どもたちを守る一つとして、小学校は制服を作れないか。また復活できないか。

会長) 経済的な負担を考えると難しいと思う。制服ではなくてもちょっと目印になるものを付けておくことはできそうに思う。防犯ブザーは付けていますが、青色のものを付けて、ピーピー、カチカチ鳴らし歩いていた。そういう仕掛けも必要かと思いました。ありがとうございました。

委員) 31年度方針の真ん中あたりにある関係団体との連携についてだが、「青少年の問題等健全育成に係る協議会(三者の会)」を昨年までは行っていたが、この2月からなくなった。問題点の一つに誰がコーディネートするかがあった。青少年センターが事務局としてコーディネートすると思っていたがそうではないということがわかった。2点目は、団体の特異性で青少年補導委員会や防犯協会は指導対象とする人の問題点が似ており情報の共有を行いやすいが、保護司会からは個人情報守秘義務の観点から話せないことが多く、情報を共有することに難しさがあった。継続するかしないかについて(各団体から5人ぐらい出て話しており)5人の思いが強すぎて、一長一短様々な意見があったが、とりあえず合同で行っていたキャンペーン等の活動は今まで通り行うが話し合いは中止となった。しかしこの会議は必要だと思う。青少年補導委員会と防犯協会と保護司会の連携の芽を摘んでしまったのが問題だと思っている。

事務局) 顔を合わす機会はあるし連携活動は行うので、その場を利用して行いたいと考えている。そのうえで何かを協議しようとするものがあれば行おうと考えている。

委員) 顔見知りというのはとっくに過ぎている。教育委員会管轄の青少年補導委員会と警察署管轄の防犯協会が主催する補導はかぶるものがあるが、仕事内容が重複するところがあるが、保護司会は少し違う。推薦されているものが違うので食い違いが起こる。話し合いがなくなってキャンペーンだけお手伝いに行くというのでは連携活動にならないと思う。10年ぐらい見ているが、青少

年補導委員会はメンバーが変わっているが防犯協会や保護司会はほとんど変わっていない。顔見知りは過ぎているので、働きかけをしないと情報交流はできない。

会長) 会議の目的を明確にしようとしています。

委員) 青少年補導委員会は小中学生を、防犯は20歳近い青年を見ている(指導対象)年齢が青少年で、警察の所轄は少年係だ。年齢の差がありずれが生じる。

会長) 会を持つ、持たないは目的を整理して進めたいと思う。

## 5. その他

事務局) 5. その他 に入ります。委員の皆様から何かございましたらお願いいたします。

(特になし)

次回は6月中旬ごろを考えています。日程が決まりましたら委員の皆様へご案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、平成30年度第2回川西市青少年センター運営委員会を閉会させていただきます。